

# 事務事業評価シート

(平成 25 年度実施事業)

事務事業名	塵芥処理事業			事業コード	0290
所属コード	059000	課等名	収集センター	係名	-
課長名	佐藤 博	担当者名	今泉 潤	内線番号	5213
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般	<input type="checkbox"/> 公の施設	<input type="checkbox"/> 大規模公共事業	<input type="checkbox"/> 補助金	<input type="checkbox"/> 内部管理

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	環境との共生	コード	6	
	施策	生活環境の保全	コード	1	
	基本事業	環境衛生の確保	コード	1	
予算費目名	一般会計 4 款 2 項 2 目 塵芥処理事業 (001-01)				
特記事項					
事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度	<input type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	年度
根拠法令等	盛岡市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例等				

### (2) 事務事業の概要

家庭系一般廃棄物の収集運搬

### (3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

明治 39 年都市化に伴う廃棄物の増加により事業開始

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

集積所にあるごみを単に収集運搬するだけでなく、行政サービスとして市民からのニーズが多様化している。

加えて環境問題への対応も求められており、ごみの分別化の細分化、減量にむけた取り組みが推進されているところである。

## 2 事務事業の実施状況 (Do) . . . . .

### (1) 対象 (誰が, 何が対象か)

旧盛岡地域 (担当区域分) の家庭系一般廃棄物の排出者

### (2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 見込み
A 一般家庭		86923	74371	66000	54000	40000
B						
C						

### (3) 25年度に実施した主な活動・手順

### (4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 収集量	t	16,705	13,100	12,000	10,463	9,000
B						
C						

### (5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

市民生活をうるおいのあるものにするため, 一般家庭の日常生活に伴って排出される家庭系一般廃棄物を迅速かつ安全に収集する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績	26年度目標値
A 苦情・要望件数の減少	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	件	2	1	0	1	0
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	48674	45232	52386	27852
	⑤その他( )	千円	84	125	84	108
	A 小計 ①～⑤	千円	48758	45687	52800	27960
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	102594	85634	81396	84127
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	410328	311233	325584	255835
計	トータルコスト A+B	千円	459084	335427	378384	283687
備考						

3 事務事業の評価 (See) . . . . .

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

見直す余地がある

廃棄物の迅速な処理は、快適で潤いのある生活環境の保全へと結びつく

② 市の関与の妥当性

妥当である

法定事務である

③ 対象の妥当性

現状で妥当である  
法定事務である

④ 廃止・休止の影響

影響がある  
家庭系一般廃棄物の収集が滞ると、市民からの苦情を浴びる。  
また、収集が滞ることにより衛生上悪影響となる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上余地がある  
ごみ集積所の整備等により、効果的な収集ができる

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

適正化余地がある  
粗大ごみを有料化としたが、可燃ごみ等についても有料化について調査検討を進めていく必要がある

(4) 効率性評価

削減余地がある  
委託の推進

**4 事務事業の改革案 (Plan) . . . . .**

(1) 改革改善の方向性

委託が推進される中で、直営収集のもつ意義を考えていく必要がある

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

民間委託推進による市民サービスの低下  
所管課による指導徹底

## 5 課長意見 . . . . .

### (1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

### (2) 全体総括・今後の改革改善の内容

・平成 14 年度から可燃廃棄物について委託を実施しており，委託化推進により車両及び人員が減少してきている。今後においては，直営の果たすべき役割を明確にし，効果的・効率的な運用を検討して行きたい。